

# リフト機器導入に至る経過と 導入後の状況

社会福祉法人 春圃会  
特別養護老人ホーム 春圃苑  
生活支援第1課(広域型特養) ■  
伊東 岬(コンサルタント:OT)



小泉拠点 (法人本部)

# 法人の概要

○法人設立

平成2年7月12日

○特養開設

平成3年4月1日

○経営理念

- ・苑是「和」の実現
- ・尊厳ある生活の場の確立
- ・利用者様本位のサービス提供
- ・開かれた苑づくりの推進
- ・社会貢献活動への職員参加

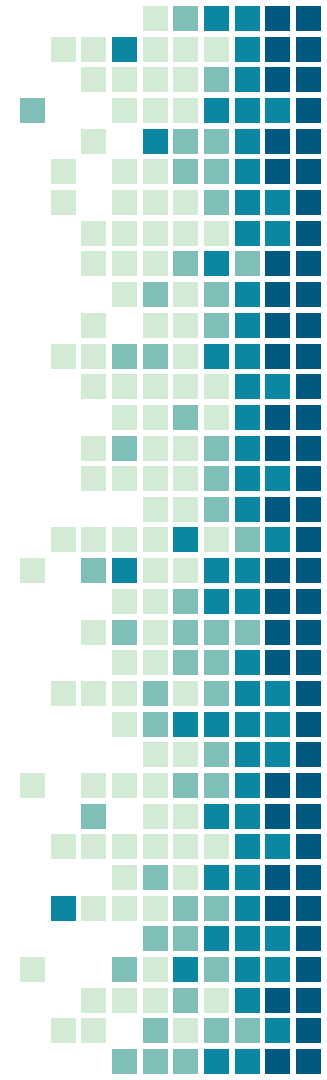
○職員数

159人（正職員・准職員・パート）

○離職率

10.3%（平成30年度）

\*採用者数32人、退職者数16人

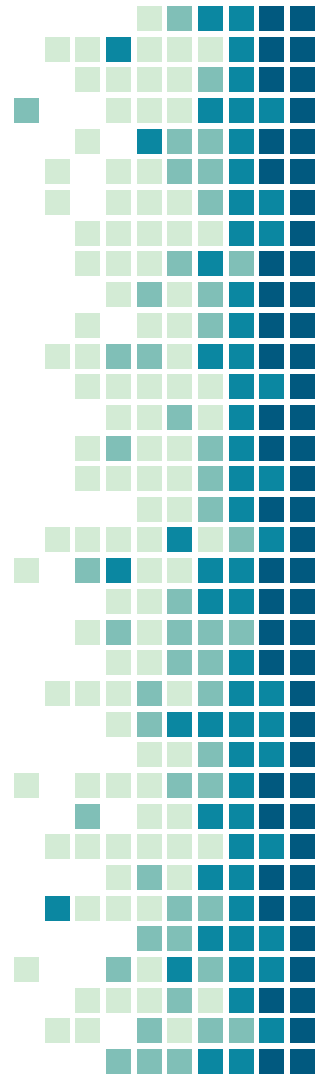


## ○事業

・ 特別養護老人ホーム春圃苑 50床 (平成3年4月開始)

・ 短期入所生活介護事業 10床 (平成3年4月開始)

- ・ 小泉デイサービス定員35人 (平成 3年 4月開始)
- ・ 居宅介護支援事業 (平成12年 4月開始)
- ・ 在宅介護支援センター (平成16年10月開始)
- ・ 訪問介護事業 (平成17年11月開始)
- ・ 春圃苑健康農園 (総合支援事業) (平成23年 4月指定管理)
- ・ 津谷デイサービス定員35人 (平成24年 6月開所)
- ・ LSAサポート事業所 (平成23年 8月受託事業)
- ・ 地域密着型特養 春圃苑 20床 (平成25年 4月開設)
- ・ 24時間定時巡回・随時対応型事業 (平成27年 3月開始)
- ・ ケアハウス大谷春圃苑 定員20人 (平成30年 4月開設)
- ・ 大谷デイサービス 定員25人 (平成30年 4月開所)
- ・ しゅんぽえんの保育所 定員18人 (平成30年 4月開所)



# 「職場における腰痛予防対策指針」

平成25年6月 厚生労働省発出

- 事業者は労働者の健康を確保する責務を有しており、トップとして腰痛予防対策に取り組むことを表明した上で、安全衛生担当者の役割、責任及び権限を明確にしつつ、作業実態に即した対策を講ずることが必要である



原則、人力による抱え上げは行わせない方向での検討、取り組み

# 人力のみによって取扱う重量物の取扱い

○男性は体重の約40%以下

○女性は男性の約60%

例えば・・・体重70kgの私だと

28kgが上限

女性だと16.8kgが上限

## 部署における抱え上げの現状 H30.4～8

○長期入居者50人中、リフト移乗に該当する

端座位不可（移乗全介助）の方が約15人

○平均体重約45kg

○ベット車椅子間の移乗1日1人平均6.5回

上記対象に合計97.5回抱え上げ

部署における抱え上げの現状 H30.4~8

仮に・・・

女性2人介助  $16.8 \times 2 = 33.6 \text{ kg}$

平均体重 45 kg



# 部署における抱え上げの現状 H30.4~8

○1日で職員1人あたり 25回

○1年で職員1人あたり 6250回



元気な体も

壊れます！！

リフト機器導入と  
様々な取り組み  
を経て・・・



# 部署における抱え上げの現状

H31.2~

○1日で職員1人あたり

25回

○1年で職員1人あたり

6250回



## ～ 導入に到る経過 ～

### ○職員状況 1（昨年4月～6月頃）

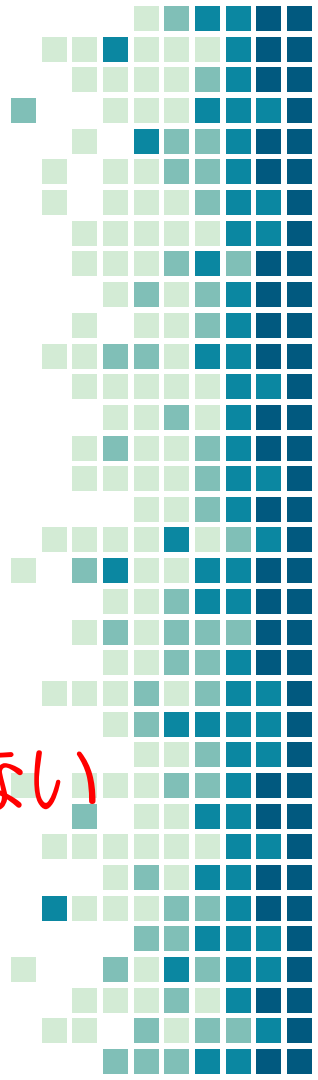
- 職員30人中、急性腰痛発症者4人
- 業務制限や治療、療養のための休暇を要し、  
一時的な人員不足
- 時間外や休日出勤等で人件費増

## ～ 導入に到る経過 ～

### ○職員状況2（4月～6月頃）

- 急性腰痛発症者は以前から**繰り返し発症**
- **慢性腰痛**に至っては**職員の半数以上**
- 長年続けてきた**抱え上げ介助**から**脱却できない**

、(´Д`;)なんてこった！！



## ～ 導入に到る経過 ～

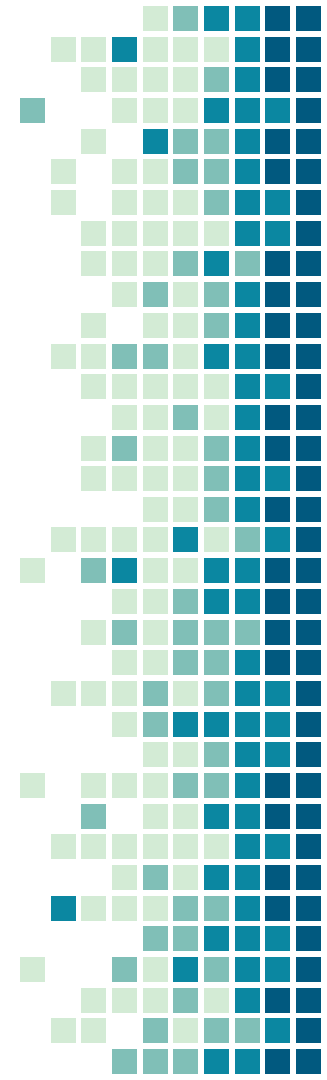
○既存のリフト機器導入、使用状況

- 平成26年6月に床走行リフト1台導入。
- 平成28年4月に床走行リフト2台導入。



平成30年4月段階ではほぼ使われていない状況。

ㄣ(´□` )ㄣ オーマイガッーツ!!





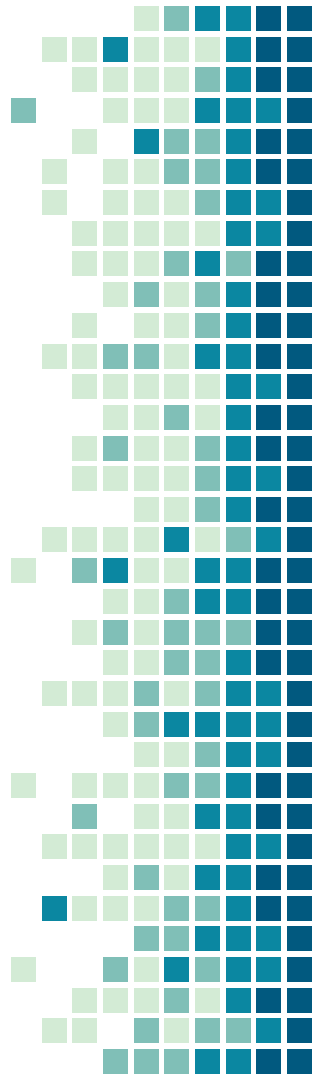
# ～ 導入に到る経過 ～

○リフト機器が使われていなかった背景

- 対象者の状態変化等に伴い、再選定がなされず、  
使われ方も曖昧に
- 機械に慣れない、新たなものへの不安と抵抗
- 知識技術が向上せず、「手でやった方が速い」



指導者（啓発者）がいない





# ～ 導入に到る経過 ～

○どのようにリフト機器が導入されてきたのか？

- 現場の必要性はどうだったのか？
- 課題の整理、明確化されていなかった？
- 導入までの研鑽、キーマンの育成等の準備が不十分？



補助金（助成金）ありきの導入？

# ～ 導入に到る経過 ～

## ○管理者会議での検討

- 課題を法人全体で認識し喫緊の課題として検討開始
- 従来の腰痛対策だけでは限界がある
- 「人体のパーツは替えが効かない消耗品」



機器の積極的な活用に向けた啓発、指導、新たな機器導入  
の必要性について提案する

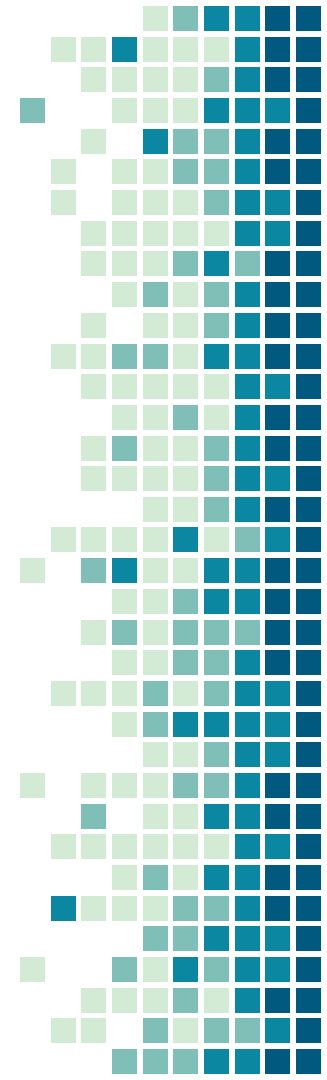
# ～ 導入に到る経過 ～

○法人内での議論に広がり

- ・現状を変えなければ法人の財産たる職員を守れない
- ・3K・5Kと言われる介護業界に定着してしまったイメージをいかに払拭して行けるか



法人全体で関心が高まり、広く議論がなされる



# ～ 導入に到る経過 ～

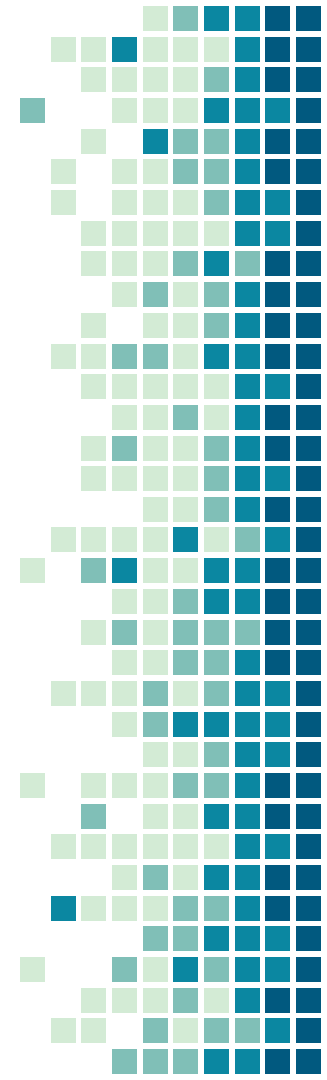
当初（昨年4月～6月頃）の課題を整理すると、

○リフト機器の使用が進展しない

○腰痛を抱えた職員が多い

○介護業界へのイメージの悪さ

○機器導入に係るコスト



# ～ 導入に到る経過 ～

○そんな折・・・

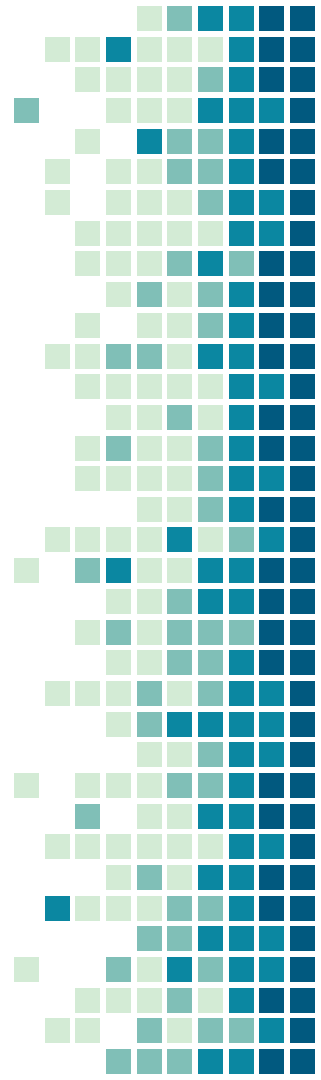
## 「平成30年度介護職員勤務環境改善支援事業」

- 平成30年5月28日（月） 事業説明会
- 平成30年7月20日（金） 研修会



案内を受け早速参加させて頂く

㊗️(°▽°)㊗️!!!



# ～ 導入に到る経過 ～

○管理者会議で報告（事業説明会について）

- 機器導入コストについては補助金を受けることで進展
- 既存のリフト機器の継続的使用により、腰痛発症者でも仕事が続けられるケースも出来た



承認を得て「補助金交付申請書等」を県に提出

○(≧◇≦)○ウオー!!

# ～ 導入に到る経過 ～

- 7月の研修会に参加
  - ・ **ひのでホーム**の取り組みに感銘を受ける
- ↓
- ・ 腰痛予防、離職防止につながる**根拠**、雇用促進につながる**ポジティブイメージ**を生むプロセス
- ↓
- ・ **機器導入の方向性**、**法人の方向性**が徐々に形作られる

# ～ 導入に到る経過 ～

○ひのでホームの見学、国際福祉機器展

- 様々なリフト機器、スリングを見学
- **リフト推進チーム**の技術の高さ、意欲、自信を持った姿勢に感銘を受ける
- **独自マニュアル**の作成、研修会や試験の開催、リフトリーダーの育成など**技術研鑽の仕組み**に驚く



# ～ 導入に到る経過 ～

○その中でも特に・・・

- 据え置き型の**使わざるを得ない**特徴を改めて実感
- 据え置き型の**組み立て設置には数時間を要する**
- 短時間の離床等に際しては、**スリングを敷いたまま**



# ～ 導入に到る経過 ～

- 「アーチパートナー」と出会う
- 据え置き型新商品「アーチパートナー」（明電興産）の紹介場面に立ち会う。
- 国内メーカーであり、保守点検や部品交換のコストが抑えられることなどの説明を受ける

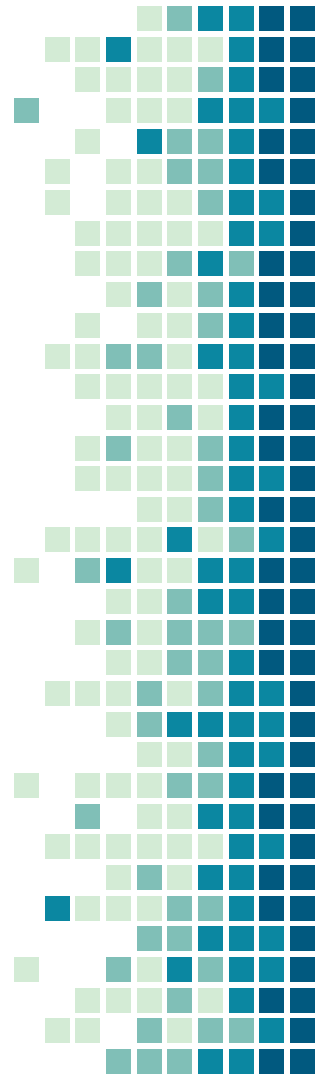


ニーズ、課題解決策に合致、導入イメージが出来る

# ～ 導入に到る経過 ～

○機種、スリング、業者の選定へ協議（11月末）

- 超低床ベットを最も低くして使用する可能性
- セッティングのし易い方が良い
- 今後の保守、部品交換に係るコストを抑えたい
- 期間後を見据えたレンタル契約が好条件で可能か
- スリングは敷いたままにできるもの
- 実際に見て、使用したもの



# ～ 導入に到る経過 ～

○明電興産「アーチパートナー」に決定（12月末）

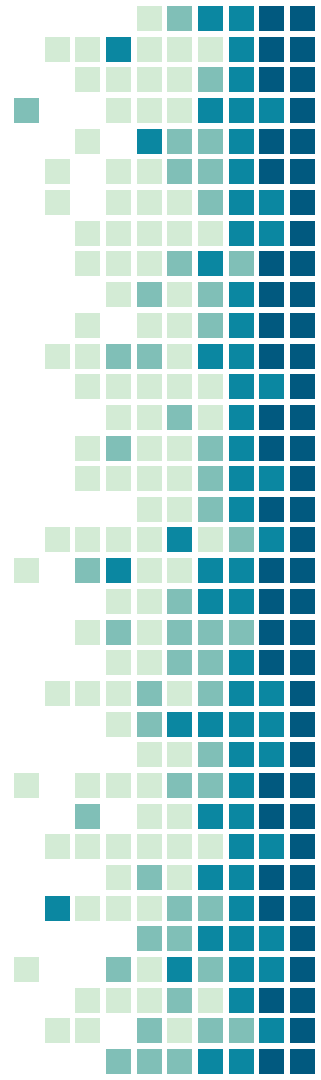
- 5年間のリース契約として導入（県助成金は2月～3月の2カ月に適用）
- 同社製の浴室用スリング9枚の購入を決定（ローバック5枚、ハイバック4枚）

# ～ 導入に到る経過 ～

## ○「アーチパートナー」について

- 選定時の協議内容に沿った商品
- 従来の据え置き型と比べ対象者への**圧迫感が少ない**
- 据え置き型なのに**セッティングし易い**





# ～ 導入に到る経過 ～

## ○「スリング」について

- 敷いたままにできる軟らかい入浴用を選定
- 洗い替えのため、お一人に複数枚のスリングを準備







# ～ 導入に到る経過 ～

## ○機器導入に向けた現場の準備（12月末）

- 既存の床走行リフトの使用をさらに活発化
- リフト機器使用の**意味**について改めて法人全体に啓発
- **ノーリフトチーム**を結成し、研修会を開催（月1回）



さらに**キーマン**が育成され**機運が高まる**

# ～ 導入に到る経過 ～

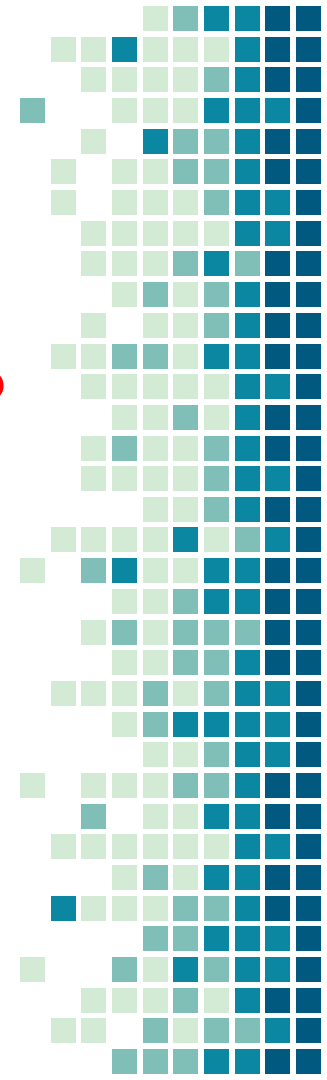
## ○対象者の選定

- キーマンを通じて現場の課題を集約し対象者を絞る



\* 抱え上げ介助について課題のある3名を選定

- A様 「床からの移乗」
- B様 「対麻痺により下肢を浮かせた移乗」
- C様 「重さに加え、フォーシ管理を要する移乗」



～ 導入に到る経過 ～

そしてついに！！

平成31年1月29日（火）

「アーチパートナー」3台 めでたく納入

ヤッタービ（\*´▽`）（▽、\*）ゾーッタ！！

# ～ 導入後の状況 ～

## ○使用開始にあたり

- 機器使用に係るマニュアルをキーマンに配付

①初めて操作する職員は、事前に操作経験のある職員から指導を受ける

②操作前に必ず被験者としてリフト機器に乗ってもらう

# ～ 導入後の状況 ～

## ○導入後の職員の声

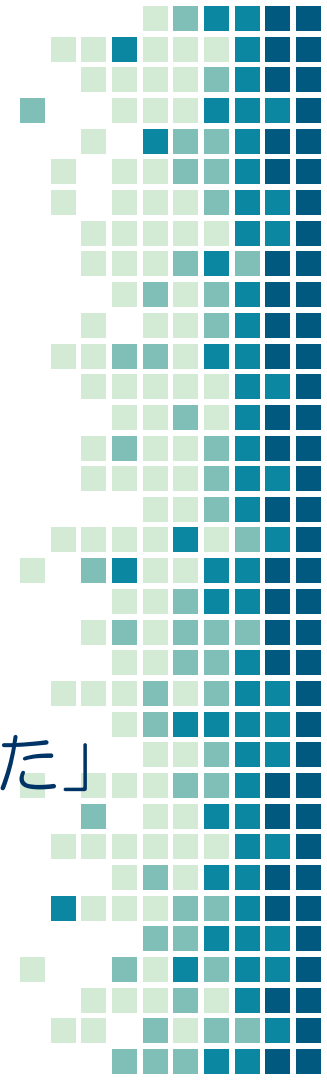
「セッティングの手間が減った」

「操作が楽」 「腰に負担が掛かりにくい」

「職員1人で移乗が可能」

「スリングで吊られてみて快適さ、ポイントを認識した」

「移乗前後の工夫も必要と感じるようになった」



# ～ 導入後の状況 ～

○アンケート実施（H31年3月 対象30人）

- ・リフト機器導入で体の負担が減ったとの回答が

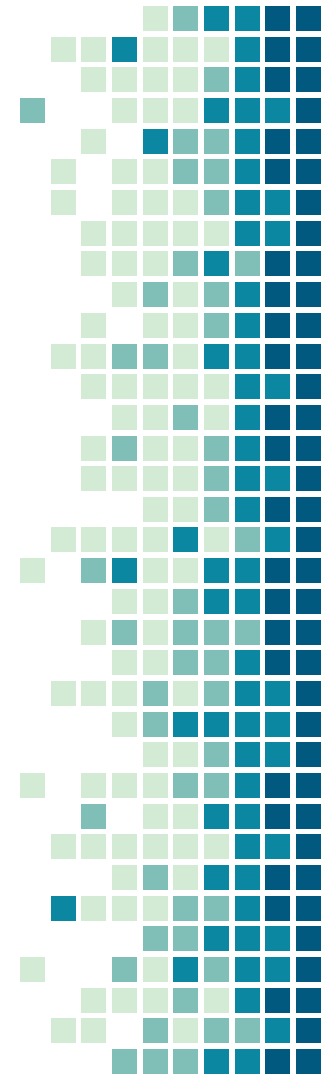
95%

- ・リフト機器の使用率

90%

- ・さらなる導入の希望

98%



# ～ 導入後の状況 ～

## ○残された課題 1

- トイレ、脱衣場での抱え上げ介助への対策
- さらなるリフトの導入に向けた協議、導入に係る助

成金の情報収集

- ★さらなる研鑽（リフトリーダー研修への派遣、外部コンサルタントによる指導、研修会の開催等）

# ～ 導入後の状況 ～

## ○残された課題2

- 独自マニュアルの作成（事業所、対象者の特性や安全性の追求）
- ★ 新人職員研修への盛り込み（入職時から使用できる）
- ★ ご家族説明会の開催（機器への理解を深める）



# ～ 導入後の状況 ～

## ○残された課題3

- 離床臥床に伴う環境の整備（シーティング、ポジショニング、クッション、車椅子等）
- スタイリッシュさを売りにしたイメージ戦略
- ★既存の介護ロボット「眠りスキャン」とリンク

# ～ 導入後の状況 ～

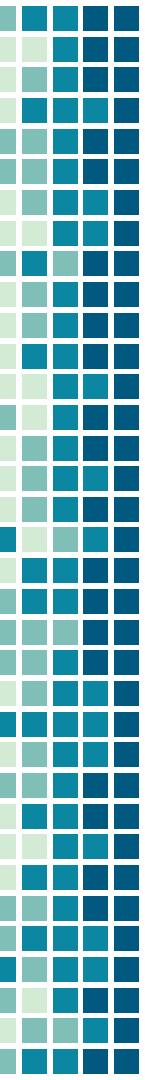
## ○残された課題4

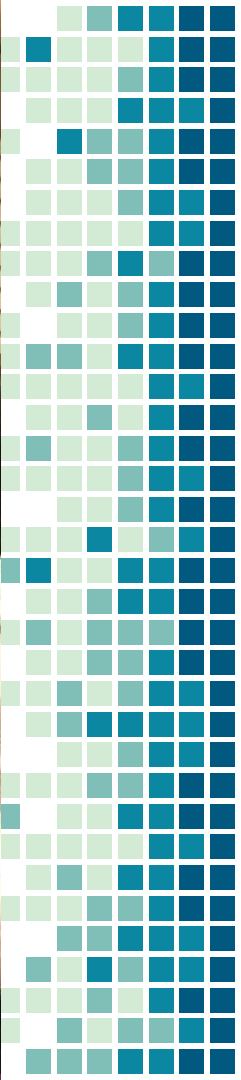
### ★機器使用前後での職員へのアンケートの実施

(心身の負担、腰痛の状況、機器へのイメージなど)

- 腰痛による休暇や離職状況の変化に伴うコストの変化について把握







# ～ 事業を通じて（まとめ）～

- 機器の試験的導入という補助金の趣旨に適った取り組みを進め、最終的に機器の本格導入につながった
- 法人全体でリフト機器の必要性について広く考える機会、法人（事業所）の方向性を見出すことにつながった

## ○コンサルタントとして

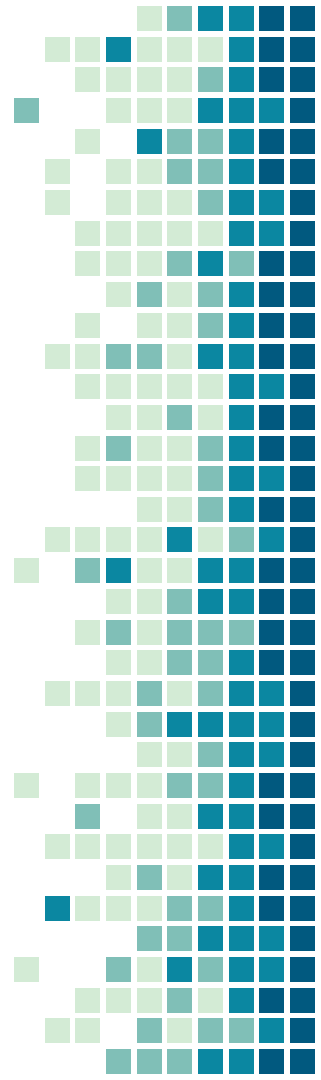
沢山の経験、知識技術の習得に加え、**リハ職**  
**としての活かされ方、生き方**を知った

## ○部署管理者として

現場や他部署、上司と折衝しながら取り組んだ  
ことで**部署運営にもつながるヒント**を得た

## ○一人の職員として

人を巻き込み推進して成し遂げることの**面白さ**、  
チームで分かち合える**喜び**を改めて実感



# ～ 事業を通じて（まとめ）～

○上司（法人）の理解がなければ困難！！

先駆的に取り組もうとする考えが上司（法人）にあり、

後ろ盾になってもらえたからこそ取り組みが進んだ

○やはりお金は大事！！

今後も県の補助金の継続を強く要望したい。可能ならば

購入に係る事業で補助率UPをお願いしたい。

(\*'▽`\*)φ..:.\*・THDЙКУOU..\*・° ☆..

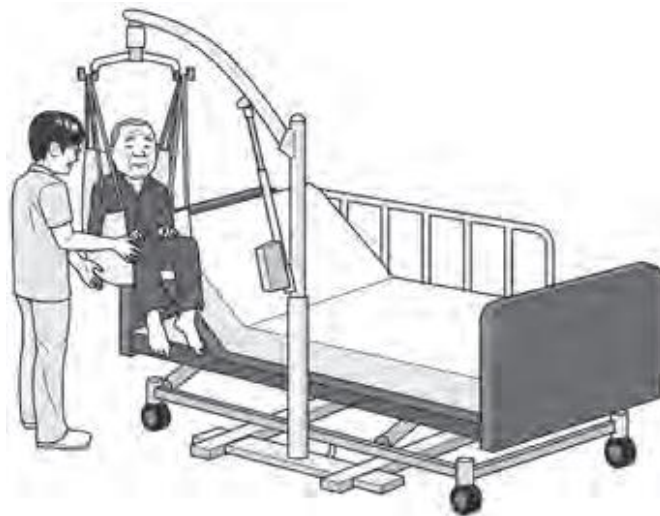
ご清聴ありがとうございました



# リフト機器の種類



移動式リフト

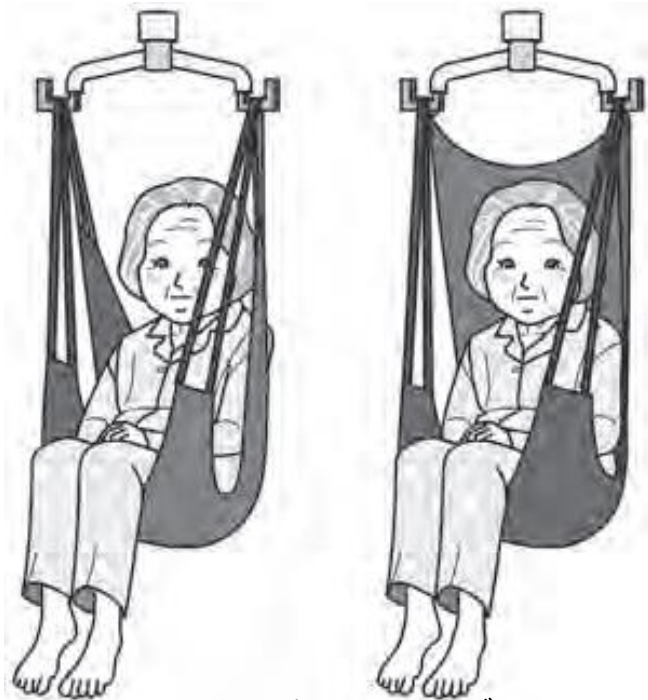


設置式リフト



レール走行式リフト

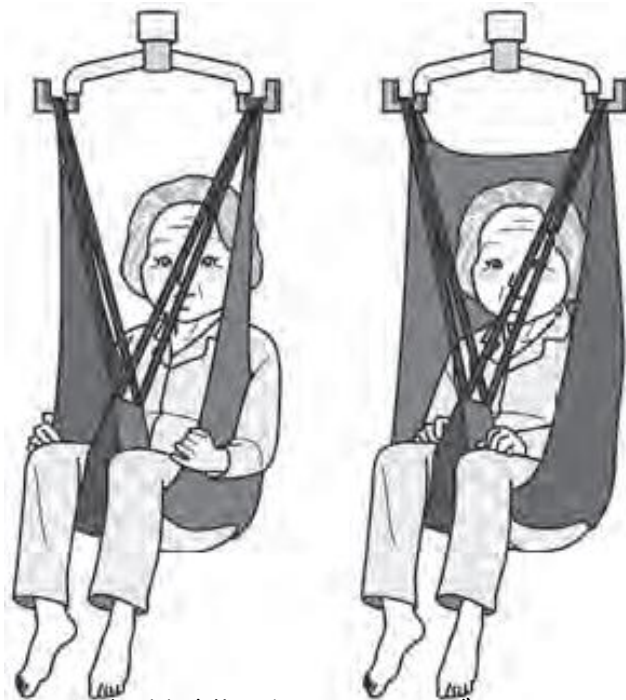
# スリング(吊り具)の種類



シート型スリング

ローバック

ハイバック



脚分離型スリング

ローバック

ハイバック

## 身体機能から見た移乗方法の分類

	身体機能	移乗方法
①	立位・方向転換可能	立位移乗自立 立位移乗軽介助
②	手を離しても端座位が安定	座位移乗自立 座位移乗一人介助 スタンディングリフト
③	つかまっていれば端座位可能	座位移乗一人介助 座位移乗二人介助 スタンディングリフト
④	端座位不可能	座位移乗二人介助 リフト移乗